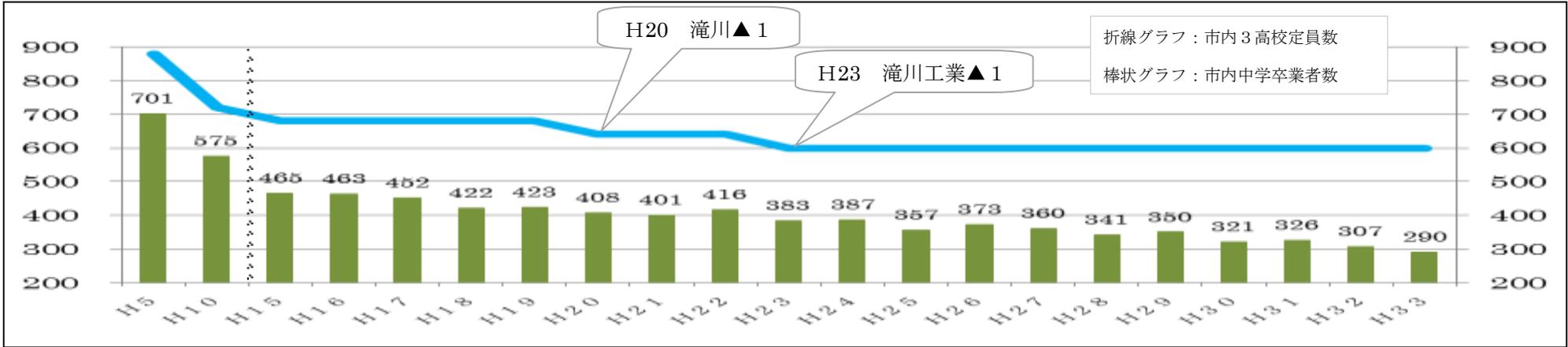


「滝川市内高等学校教育のあり方について」

1. 背景

全国的な少子化問題 ⇒ 市内中学校卒業生数の減少 ⇒ 市内高校間口の削減 ⇒ 高校教育のあり方見直し



H26.9月 北海道教育委員会「公立高等学校配置計画(H27~29)」

- H27~29 計画**
 - ・ H27 奈井江商業 1 間口減
- H30~33 見通し**
 - ・ 空知北学区、6~7 学級相当の調整が必要
 - ・ 滝川市内、再編や市立高校を含めた定員調整の検討が必要

★高校配置計画は「H27~29 計画」部分と「H30~33 見通し」部分がそれぞれ毎年の見直しにより1年ずつ繰り下がり発表される。

例)

- H26** 「H27~29 計画」「H30~33 見通し」
- H27** 「H28~30 計画」「H31~34 見通し」

滝川市における市内高校のあり方を検討

⇒ H27.6月 道教委「公立高等学校配置計画(案)(H28~30)」までに結論

2. 市内高校の現状

◎市内3校及び新十津川農業、普通科・商業科・工業科そして農業科とバランスのとれた恵まれた地域

① 滝川高校

・市内のみならず空知北学区の進学校として中心的役割

普通科（5間口）⇒H20 1間口減⇒生徒の学力底上げ等にプラス転換

理数科（1間口）⇒理系国公立の進学等に有効⇒S・S・H⇒さらに役割強化

今後も地域の学力を牽引する進学校

近年度々定員割れ（普通科、理数科）

② 滝川工業高校

・空知管内で唯一の工業高校として第2次産業を支える人材育成の中心的役割

電子機械科（1間口）⇒高い市内中卒者進学率・概ね定員維持

電気科（1間口）⇒高い市内中卒者進学率・概ね定員維持

今後も地域の第2次産業の人材育成を支える学校

近年度々定員割れ（電子機械科、電気科）

③ 滝川西高校

・中空知の商業教育の中心的役割・地域に密着した市立学校としての役割

商業科（4間口）⇒就職・進学両面での充実と高い市内中卒者進学率

普通科（3間口）⇒進学率向上（英語教育・サテラインなど）

生徒の多様なニーズに対応する学校（就職・進学・部活動）

学区最大規模、時折定員割れ（普通科、会計ビジネス科）

※ 新十津川農業

農業科（1間口）⇒高い市内中学卒業生進学率・少人数教育

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
入学者	41	38	35	37	38	49
滝川出身者	24	31	26	27	25	31

※H27は、出願者数

3. 空知北学区における課題と方向性

(1) 中学校卒業者の減少 … 表1

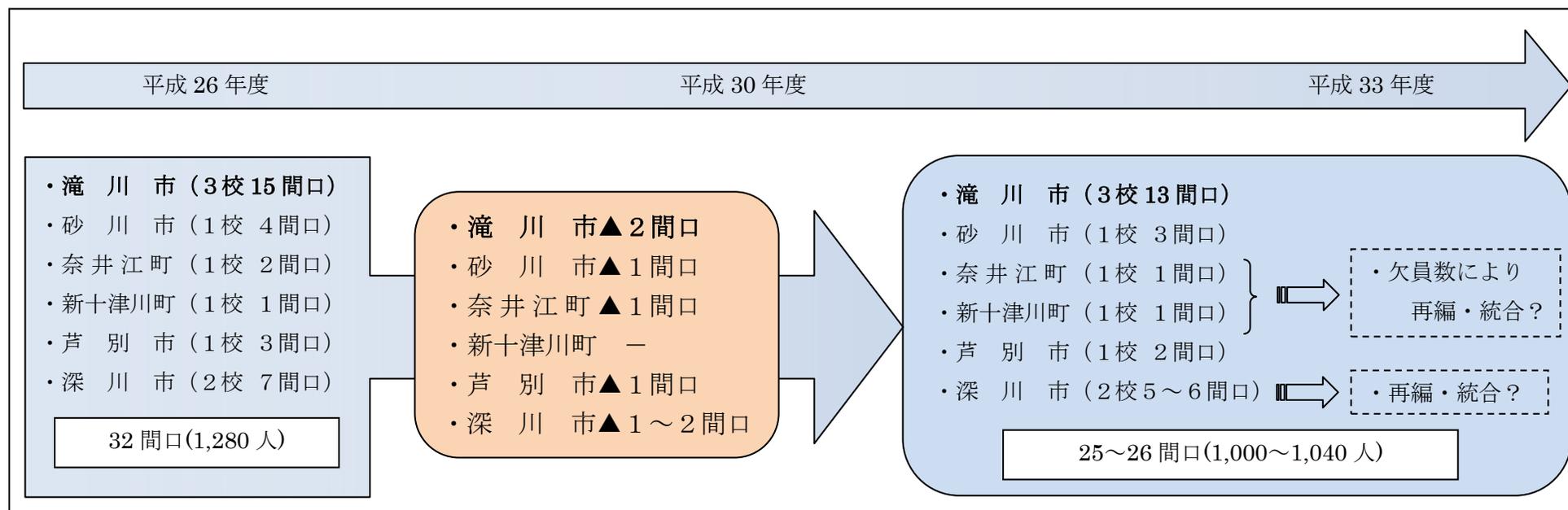
- ①空知北学区においては、今後も中学校卒業者の減少が続く見込み。特にH30は、前年比98人の減少。
- ②中学校卒業者の減少により、定員が60～100人上回る状況（1～2間口相当）。H30は、定員が200人上回る（5間口相当）。



- ③北学区のほとんどの高校において欠員が生じている。このままの定員では、さらに欠員が増える状況。
- ・ H26、北学区9校中7校で欠員 ※西高・芦別のみ定員

(2) 道教委の方向性（定員調整） … 表2

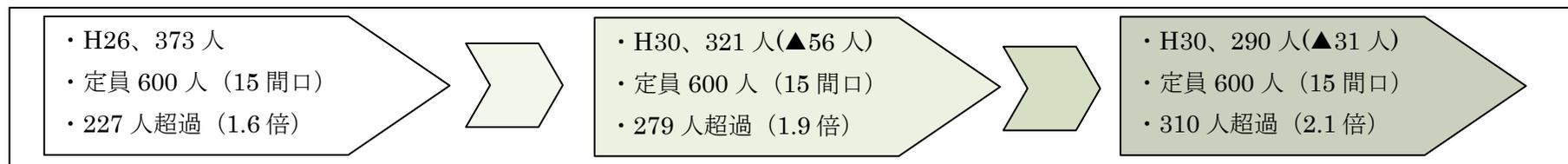
- ①公立高校配置計画（H27～H29）におけるH30～33までの見通しでは、4年間で6～7学級相当の調整が必要とされている。
- ②空知北学区中学卒業生数の推移や欠員状況などから、定員調整（6～7間口）として次の可能性が考えられる。



4. 滝川市における課題と方向性

(1) 中学校卒業者の減少 … 表3

- ①滝川市においても、中学校卒業者の減少が続く見込み。
- ②市内の定員は600人（15間口）であり、中学卒業者を大幅に超えている状況。



(2) 道教委の方向性（市内高校の定員調整）… 表4

- ①公立高校配置計画（H27～H29）におけるH30～33までの見通しでは、滝川市内において、再編や市立高校を含めた定員調整の検討が必要とされている。
- ②市外の高校は、既に小規模校化（1～4間口）しており、さらなる定員調整は再編・統廃合に繋がる。
- ③例年80名以上の中卒者が市外に進学している状況にあり、市外高校の小規模化は様々な面で影響があり、市外進学者の教育環境にも好ましくない。
- ④再編統合による市外高校の減少は、周辺市町の衰退に繋がり、ひいては滝川の衰退に繋がる。

1間口	2間口	3間口	4間口	6間口	7間口
新十津川農業 奈井江商業	滝川工業	芦別 深川東	砂川 深川西	滝川	滝川西

中学卒業者の減少や道教委の方針等により、H30における市内高校の定員調整は不可避

(3) 市内3校体制の維持 … 表5

- ①滝川市内における、高校進学時の幅広く分かりやすい選択肢や、多様化した社会に対応した進路に即した、進学から資格取得・就職と様々な役割・特色を備えたよりよい高等学校教育を提供する上で、現行の市内3校体制の維持は不可欠であり、H30の定員調整については次の事が考えられる。

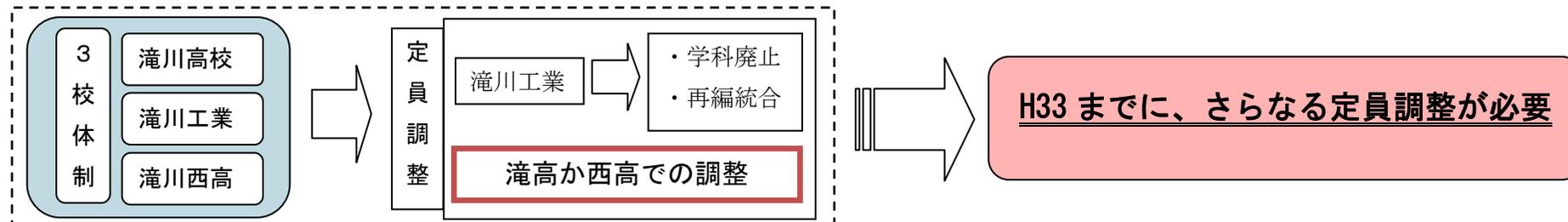


表 1－空知北学区中学卒業生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H26-30	H30-33	H26-33
北学区中卒者数	1,194 人	1,186	1,146	1,136	1,038	1,009	956	878	▲156	▲160	▲316
前年比		▲8	▲40	▲10	▲98	▲29	▲53	▲78			
北学区高校定員	1,280 人	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240			
定員との差	86 人	54	94	104	202	231	284	362			
定員の倍率	1.07 倍	1.05	1.08	1.09	1.19	1.23	1.30	1.41			

表 2－地元間口と中学卒業生数の推移

	間口定員	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H26-30	H30-33	H30-33
滝川市	600 人	373	360	341	350	321	326	307	290	▲52	▲31	▲83
砂川市	160	171	150	159	159	145	138	136	127	▲26	▲18	▲44
奈井江町	40	52	62	50	56	44	46	38	41	▲8	▲3	▲11
新十津川町	40	59	66	73	59	63	63	50	52	4	▲11	▲7
芦別市	120	120	131	104	103	97	81	83	85	▲23	▲12	▲35
深川市	280	152	162	160	163	136	156	137	119	▲16	▲17	▲33

表 3－市内中学卒業生数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
市内中卒者数	373 人	360	341	350	321	326	307	290
前年比		▲13	▲19	9	▲29	5	▲19	▲17
市内高校定員	600 人	600	600	600	600	600	600	600
定員の倍率	1.61 倍	1.67	1.76	1.71	1.87	1.84	1.95	2.07

表4－市内中学生の進路状況

		全 日 制								市外の 公立高校	市外の 私立高校	定時制 (滝川高)	通信制 (クラーク 高校・有朋 高校等)	工業高専 盲・聾学校 養護高等 専修等各 種	就職 その他	
		滝川西高			滝川高		滝川工業		電子 機械							電気
		普通	会計 ビジネス	情報 ビジネス	理数	普通	電子 機械	電気								
H26	市内進学者	30人	44	38	17	95	18	21	80	10	5	7	6	2		
	市内進学率	70.5% (普通科 38.1%・職業学科 32.4%)								29.5% (普通科 15.3%・職業学科 11.0%・ほか)						
	市内の割合	24.8%	55.0	47.5	43.6	47.5	54.5	72.4								
		39.9%			46.9%		62.9%									
H25	市内進学者	47	38	49	13	72	28	19	62	15	2	5	5	2		
	市内進学率	74.5% (普通科 37.0%・職業学科 37.5%)								25.5% (普通科 10.1%・職業学科 11.8%・ほか)						
	市内の割合	39.2	47.5	61.3	44.8	37.3	70.0	50.0								
		47.9%			38.3%		60.3%									

表5－市内高校間口の推移

学科名		S58	S63	H3	H6	H7	H10	H13	H20	H23～
滝川西高	普通	4	4	4	4	3	3	3	3	3
	商業(情報)	4	4	4	2	2	2	2	2	2
	(会計)				2	2	2	2	2	2
滝川高	普通	7	7	7	6	6	6	6	5	5
	理数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
滝川北高	普通	3	2	2	2	1				
滝川工業	機械(電子機械)	2	2	2	2	2	2	1	1	1
	電気	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	土木	1	1	1	1	1	1	1	1	
	工業化学	1	1							
		24	23	22	21	19	18	17	16	15